

## 令和5年度 建設経済環境委員会行政視察報告書

◎実施日：令和6年1月24日（水）

◎参加者：佐藤 浩（委員長） 小松 幸子（副委員長）

坂巻 重男 助川 忠弘 橋口 幸生 田口 康博

岡田 智佳 松本 寛道 上橋しほと

◎調査内容

実施日	視察先	視察項目
1月24日	兵庫県 姫路市	姫路駅周辺整備について

姫路市は、兵庫県の南西部、播磨平野のほぼ中央に位置し、人口約52万3,000人、面積534.35平方キロメートルの中核市である。「城を望み、時を感じ人が交流するおもてなし広場」を基本コンセプトとした姫路駅周辺整備事業の経緯や概要、効果及び課題について詳細に説明いただいた。

事業の経緯については、駅周辺に慢性的な交通渋滞が起きていたこと、市街地が南北に分断し市街地発展の妨げとなっていたことを解消するためであり、特に、駅のすぐ近くの踏切については、遮断時間が半日以上と非常に長い踏切であった。



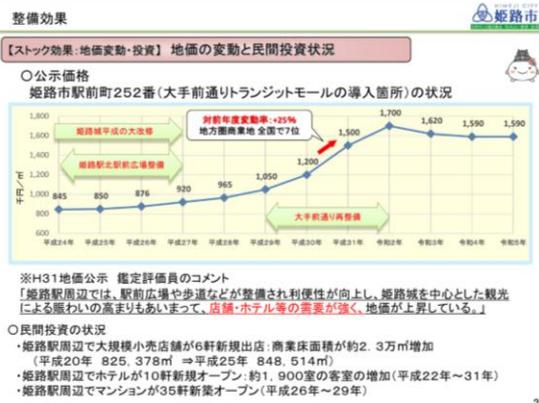
【経緯】国鉄高架化基本構想～姫路駅周辺整備事業《キャスト21》姫路市



姫路市視察資料より

事業の概要については、「山陽本線等連続立体交差事業（兵庫県施行）」、「姫路駅周辺土地地区画整理事業（姫路市施行）」、「関連道路事業（兵庫県・姫路市施行）」の3つの事業を都市基盤整備、キャスト21と名付け、「広域圏の中核都市にふさわしい、にぎわいとうるおいにあふれた交流都心」の形成を目指した。高架事業により、南北を結ぶ都市計画道路を、4本・10車線から10本28車線とし南北の円滑通行を目指して整備を行い、また、連続立体交差事業にて、駅周辺にあった車両基地、貨物基地を郊外へ整え、広大な

スペースを生み出した。事業着手時の市の都市計画案に対し、アンケート調査で約7割が「悪い」と回答し、様々な団体から多くの意見や提案を受け、関係する市民団体や関係行政機関等、各方面から委員を選出し「姫路駅北駅前広場整備推進会議」を立ち上げ、計17回の会議を経て基本コンセプトを決定した。



姫路市視察資料より



姫路駅北にぎわい交流広場の日常  
姫路市視察資料より

事業の効果については、駅前広場や歩道などが整備され利便性が向上したこと、姫路城を中心とした観光による賑わいの高まりもあいまって、店舗・ホテル等の需要が高く、地価が上昇しており公示価格が上昇しているとのことであった。また、各事業により、駅前広場の区域については、6,400平方メートルから16,100平方メートルへ、環境空間については、26%から67%となり、歩行者のための駅前広場となった。また、姫路駅北にぎわい交流広場については、広場の集客性、多様な利用方法、様々なイベントのアプローチにより、にぎわいの創出を実現し、令和4年度の広場利用許可件数については482件であり稼働率は

平日95%、土日99%とのことであった。

事業の課題については、姫路駅北にぎわい交流広場にて、使用料収入500万円に対する維持管理にかかる支出7,000万円の収支バランス、商店街等への波及がない自己完結型のイベント増加によるイベントの質の低下、音楽イベント時の近隣からの音量のクレーム、施設の老朽化であるとのことであり、今後、再度市民の声を聴きながら広場の在り方の検討を行うとのことであった。



姫路駅現地視察の様子